

## トピックス：企業や市民の力で全国へ！世界へ！

### ◆ほくでん：日本電気協会社員総会後の食事会で「縄文太鼓」

本年6月6日（木）、北海道札幌市において『日本電気協会第103回社員総会』が開催され、総会終了後の食事会において、「縄文太鼓」演奏家の茂呂剛伸氏、澤口勝氏、ダンサーの鈴木明倫氏、関あさみ氏が、縄文太鼓の演奏と演舞を披露しました。

縄文文化や北海道における縄文遺跡群に関する説明を聴いた後、縄文土器をモチーフとした「縄文太鼓」の繊細かつ迫力ある音と表現豊かなダンスを堪能した出席者からは、「鑑賞というより体験に近い楽しく有意義な時間だった」、「演奏とダンスから生命の息吹のようなものを感じ、神秘的な気持ちになった」といった感想が聞かれました。また、「(私たちの地域でも)ぜひ、縄文太鼓の演奏を通じて縄文文化を伝えてほしい」と、全国各地からの演奏依頼もあったようです。



### ◆北海道信用保証協会：全国の機関紙に縄文

一般社団法人全国信用保証協会連合会の会員向け機関誌「信用保証レポート」の8月号。その表紙には、函館市の「大船遺跡」の写真が大きく掲載され、「扉のことば」には、北海道信用保証協会の阿部啓二会長が世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」について紹介しています。

阿部会長は、世界遺産登録された道内すべての遺跡を視察しており、垣ノ島遺跡で出土した足形付土版や入江貝塚の介護の形跡など、縄文の人々の生活と精神性に触れながら、今の時代へのヒントにつなげたいとの思いをつづっています。



### ◆金滴酒造：「縄文浪漫」

金滴酒造（新十津川町）は、縄文世界遺産登録が実現した3年前から、純米吟醸酒「縄文浪漫」を販売しています。

名取重和社長は、自ら北東北を訪れ、板状土偶などをラ



左：名取社長 右：荒川代表

ベルに掲載して一体的なPRに貢献しています。



北海道新幹線にご尽力された釣部勲前社長の薫陶を受け、東北との絆を大切に縄文世界遺産を応援している名取社長。2年後の金滴酒造設立120周年に向けたさらなる発展が期待されます。

### ■ナチュの森縄文展：冬まで延長

ママとキッズのスキンケアメーカー・(株)ナチュラルサイエンスが白老町で開催している「ナチュの森で縄文にであう展」。大好評につき延長が決定！現在の展示は10/20まで延長。さらに「ナチュの森で冬の縄文にであう展」を11/1-2/24まで新たに展開します。



### ■いるば28：全国の百貨店へ！

札幌市東区にある障がい者就労支援事業所「いるば28」。味わい深い縄文陶芸が人々のココロをつかみます。9月末の阪急うめだ本店でのフェアを皮切りに秋・冬は各地の百貨店でのイベントに登場する予定です。



### ■ドニワ部：11/30 はドニフェス

ドグウとハニワをテーマに全国で活動するドニワ部主催、恒例の「ドニフェス2024」。今年も開催決定！

\*11/30(土)

10:00-17:00

\*札幌サンプラザ





◆石狩振興局からのお知らせ

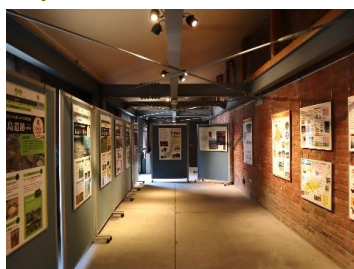
「いしかり縄文リレーパネル展」開催中です！

「北海道・北東北の縄文遺跡群」が北海道初の世界文化遺産に登録されてから3周年を迎えました。

縄文文化の魅力の更なる発信を目的として、石狩管内各市町村で北海道の縄文文化の価値を伝える解説パネル等の展示をリレー形式で実施しています。10月10日(木)～14日(月)まで江別市郷土資料館で開催します。



(北広島市役所)



(当別町ふれあい倉庫)



(新篠津自治センター)

会場では、パネル展示、パンフレットの配付のほか、3周年記念グッズもプレゼントしています！

クリアファイルやシールのほか、3周年限定キャラクター「じよもるん」のストラップも用意しています！丹精込めて作りました。とってもかわいいので是非お手にとってみてください。(数に限りはあります)



(じよもるんストラップ)

【石狩管内の構成資産】

千歳市には、世界遺産の構成資産の一つである「キウス周堤墓群」があります！

展示パネルで詳しく解説していますので、興味のある方は是非お立ち寄りください。



◆湖池屋：「プライドポテト 日本の神業 縄文香る帆立だし」発売されました。

7月15日(月・祝)、サッポロファクトリーで開催の縄文世界遺産登録3周年記念フェスタにおいて、(株)湖池屋 佐藤章社長と鈴木直道北海道知事によるタイアップ協定の締結式を行いました。

この日、発売となったばかりの新商品「湖池屋プライドポテト 日本の神業 縄文香る帆立だし」のお披露目も行い、試食する鈴木知事とともに、佐藤社長からこの商品と縄文応援の思いを伝えていただきました。

北海道産の「昆布」、青森県産の「ホタテ」、岩手県産の「しいたけ」、秋田県産の「しょつつる」を使用した海と山の恵みを堪能できる味わい。北海道出土のカックウ、東北出土のしゃこちゃんがあしらわれたパッケージで、全国において販売されています。



左：佐藤社長  
右：鈴木知事

カックウの  
パッケージ



新コーナー：遺跡のある市町を取組をご紹介します。

## 遺跡とひとを繋ぐ、遺跡でまちを繋ぐ ～北海道縄文のまち連絡会～

北海道では、約 12,406 か所の遺跡が発見されています（2024 年 4 月 1 日現在）。これらは、旧石器時代から近代に至るまでの人々が残した様々な暮らしの痕跡です。

私たちが何気なく歩いているまちのあちこちに遺跡は眠っています。しかし、地面の下にあるため、そのことが気付かれることはほとんどありません。私たち北海道縄文のまち連絡会は、ただ眠らせておくにはもったいない価値や魅力を持っている遺跡を、もっと多くの人に知っていただきたいという思いから、道内の市町村が手を携え 2010 年に設立されました。2024 年 9 月現在で 30 市町が加盟しています。

道内のほとんどの市町村で縄文時代の遺跡が見つまっていることから、遺跡の代名詞として「縄文」を会の名称に使っていますが、皆様ご存知のとおり、北海道には旧石器時代から近現代に至るまでの特徴的で地域的な多様性に富んだ豊かな歴史文化を伝える遺産が数多く残されています。そのため、私たち連絡会では、縄文時代だけでなく様々な時代や文化の遺跡を紹介しています。

遺跡や文化財というと、少し堅苦しいイメージがあるかもしれませんが、連絡会ではその垣根を取り払い、もっと気軽に楽しんでいただくための活動を行っています。その一つが「考古学カフェ」です。札幌駅地下歩行空間や道内の大型商業施設など、皆様にとって身近な場所を会場に、各まちの遺跡から出土した資料をもちよって展示したり、勾玉づくりなどのワークショップを行ったりと、多くの方楽しんでいただいています。

また、もう一つのオススメが連絡会の加盟市町を巡る「縄文のまちスタンプラリー」です。各まちの個性的で魅力的な遺跡や展示施設などを巡ってスタンプを集め終わった頃には、あなたはもっと北海道の遺跡の魅力にハマっていることでしょう。

北海道縄文のまち連絡会では、今後、紙面をお借りして数回に分けて加盟市町の紹介をさせていただきます。遺跡とひとを繋ぐ、遺跡でまちを繋ぐ。北海道縄文のまち連絡会にぜひご注目ください。

（北海道縄文のまち連絡会事務局 永谷）



## 令和6年度役員総会等を開催しました。

### ◆令和6年度役員総会

2024年7月15日(月・祝)、北の縄文道民会議の令和6年度役員総会を開催しました。

この日は、サッポロファクトリーで縄文世界遺産登録3周年記念フェスタ(道庁主催)が開催された日であり、当会議もブース展開やステージに参加。役員の方皆さんにご覧いただいた後に、隣接する旧永山邸の2階和室に移動して、役員総会として令和5年度事業報告・決算報告、令和6年度の事業計画・予算の審議を行いました。

名誉代表である鈴木直道北海道知事の代理として濱坂真一副知事にご挨拶をいただき、また、3周年の今年度の事業として、昨年に引き続き、さっぽろ雪まつりに合わせたPRイベント「縄文雪まつり2025」の開催や、企業や団体などとの連携強化について盛り込み、決定したところです。

審議の後、当会議の専門アドバイザーの阿部千春先生(道庁縄文世界遺産推進室特別研究員)や「縄文のまち連絡会」事務局の永谷さんから、登録後の状況などについて報告していただくなど、酷暑の中、コンパクトでも有意義な情報交換を行いました。



旧永山邸で開催した役員総会。濱坂副知事からご挨拶をいただきました。

### ◆縄文世界遺産登録3周年記念フェスタにて

役員総会の前にサッポロファクトリーで開催されたイベントには、道民会議も参加し、会場を大いに盛り上げました。

ステージでは、『土偶女子・譽田亜紀子さんとエビおじさんの「遺跡へ行こう!」』と題して、戎谷侑男常務理事と数々の縄文書籍を出版している譽田さん(東京支部会員)が登場。発売されたばかりの著書『こんだあきこのわたしの偏愛遺跡旅』に道内遺跡の紹介がなかったことに対し、第2弾発行と道内遺跡の掲載についてユーモアたっぷりの熱烈要望が繰り広げられました。

最後は会場の皆さんと大盛り上がりのじゃんけん大会!

また、ブースでは、当会議も後援して開催中の「ナチュの森で縄文にであう展」(白老町)のPRなども行いました。これからも、道民会議は、皆さまとともに縄文の魅力発信に努めていきます。



左:戎谷さん 右:譽田さん



会場が一つになった! 譽田亜紀子さんとのじゃんけん大会。



北の縄文道民会議  
Hokkaido Jomon Culture Promotion Council



大雪山系黒岳より初雪の便り。時の移ろいの速さを実感する今日このごろですが、会員の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

このたび『北の縄文』33号をお届けしました。理事の鶴井亨様からご寄稿いただき、お礼を申し上げます。

7月末、「土偶女子」こと譽田亜紀子さんの著書(わたしの偏愛遺跡旅)にひかれて長野県茅野市の尖石縄文考古館を訪れ、国宝土偶「縄文のビーナス」と「仮面の女神」に直面してきました。彼女たちは重厚な展示室の独立ケースに収まり、4、5千年の時の流れに來訪者を誘います。信州西山名物「縄文おやき」を頬張りながら「縄文時代の精神世界とは?」と、私の妄想はいまも進行中です。

いよいよ秋の行楽シーズンが到来。道内各地の博物館、縄文遺跡などでは各種イベントが「目白押し」です。皆さん、足を運んでみてはいかがでしょうか。



編集・発行：世界文化遺産登録の縄文遺跡群と全北海道の縄文遺跡群の活用を推進する道民会議（北の縄文道民会議）

編集 谷 紘道、北海道縄文世界遺産推進室

TEL：011-221-1122 FAX：011-221-0117 <http://www.jomon-do.org/> E-mail [ebisutani@chuo-bus.co.jp](mailto:ebisutani@chuo-bus.co.jp)